

内 容	都市振興税の延長に関する住民説明会		
日 時	令和3年2月13日(土) 午後5時30分～午後8時30分	場 所	桔梗が丘市民センター
相手方	52人		

(参加者)

- ・増税分の延長に対する説明の順序が違う。法人や家・土地をいくつか持っている人にとっては大変な負担。所得税は収入がなければ課税されないが、固定資産税は収入が減少していても納めなければならない。
- ・市長は、議員と市長が責任をもって議会で決めると言うが、議会の論議の前提はまず市民へ説明した上で、議会の中で決めていくというところが抜けている。また、5年間の都市振興税は市民生活の維持・向上に使ったというが市内の施設で修理が必要なものが目立つ。維持・向上の実感ができない。

(参加者)

- ・都市振興税を延長する決定が12月議会でなされたが、なぜ、市民への説明は決定後になったのか。もっと早く説明会を開くことはできなかったのか。

(市)

- ・ご意見については真摯に受け止めるべきことと考えています。当初、中期財政見通しについては、令和2年夏ごろの公表に向け、策定作業を進めてきましたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う国の施策や経済状況、さらには本市の税収への影響が不透明な中、策定が遅れ、結果として12月の定例議会での提案となりました。説明が事後となったことにつきましては、市民の皆さんに大変申し訳なく思っています。今後、中期財政計画を策定し、市民の皆さんに分かりやすく公表していくこととします。さらに、5年間の都市振興税40億円の使い道については、小中学校の耐震改修や空調設備整備などに取り組む一方で、限られた財源の中、優先順位をつけて、既存施設の改修などについては削減をいたしました。さまざまな施策について選択・集中しながら、財政健全化に努めます。

(参加者)

- ・なぜ、平成28年度の都市振興税の導入の際に、令和3年度以降の財政状況を見通せなかったのか。延長することを想定していたのか。
都市振興税の導入を決めたときの見通しと、今の見通しでは何がどう違うのか。また、前回の5年間ではどういう見通しだったのかが、配られた資料では分からない。ここ数年2億円近く黒字であったものが、今後3年間で赤字に転落する理由について説明いただきたい。

(市)

- ・平成28年度からの都市振興税導入の際に策定した中期財政見通しは、今後の財政状況をおおよそ見通すことができる令和2年度までの5年間として策定し、令和3年度以降も延長するかどうかは、改めて、その時点での最新の財政状況などを考慮し、検討することとしていました。
今回の財政見通しは、5年前の導入当初には想定していなかった新型コロナウイルスの感染拡大による税収への影響のほか、最新の高齢化の伸び率や社会保障制度の改正などを踏まえた扶助費の増加、三重とこわか国体の実施運営に関わる経費負担などを反映し、改めて令和3年度から8年度までの財政状況を見通したものです。
なお、今回の財政見通しでは、令和3年度から5年度まで都市振興税を賦課させていただき、さらなる行財政改革の取組を進めることで、令和7年度に収支の均衡を図ることができる見込んでいます。そして、令和8年度には、市立病院や伊賀南部クリーンセンターの建設当時の市債（借金）の償還が終了し、都市振興税がなくても黒字化できる見込みです。

(参加者)

- ・市長は、市民に選ばれた議員に対して、市民に選ばれた市長が説明した後、住民説明会をしたらいいと言ったが、市長選挙時には説明がなかった。市民に対して傲慢だ。また、コロナがなくても赤字なのは分かっていたはず、コロナのせいで説明が後になったというのは理由にならない。
- ・都市振興税は一般財源に入れると、何に使ったかが分からない。今後の3年間は特別財源として欲しい。

(市)

- ・名張市の問題は日常の行政サービスを行う財源が足りないということ。経常収支比率が100%を超えており、税金や交付税など決まって入ってくるお金を経常の支出が超えている状況です。その大きな理由は過去の市債の償還であることから、社会保障関係や子育て・医療の経費が将来的に伸びていくことが避けられない中、公債費を抑えていくということをやっています。したがって、日常の行政運営に8億5千万円の都市振興税を使わせていただいています。
- ・都市振興税導入までは、水道事業会計や特定目的基金から借入れを行うなどして財政運営を続けてまいりました。その間、増税することはございませんでした。都市振興税は特別何かをするためのものではなく、おおまかに言えば、日常の行政サービスの維持や市のまちづくりに使わせていただいています。

(参加者)

- ・5年で終わる予定ではなかったのか。なぜ、5年と言ったのか。ある程度の目安があって5年と言っていたのか。

(市)

- ・都市振興税導入時の見通しでは、5年後に都市振興税がなくても収支のバランスが取れるというところまで、見通せていませんでした。職員削減や給与カットなど、さまざまな取組を進めていく中で、5年後に再度議論をするということでした。

(参加者)

- ・都市振興税は本当に3年後（令和5年度）に終了できるのか。

(市)

- ・令和4年度までは新型コロナウイルスによる影響が続くと見込んでおり、大規模災害など突発的な事案に対応するための緊急的な財政支出がない限り、令和5年度には終了できる見込みです。

(参加者)

- ・ 今までの説明と資料では理解できない。都市計画税ではなく、都市振興税としているのは何にでも使えるから。要は市債の償還に使いたいからということか。これはほかの自治体でもやっていることか。また、税率は1.7%ではなく1.5%でも良いのではないのか。
- ・ 固定資産税はどう決めているのか。評価は民間に委託しているのか。委託している場合のチェックは適切にされているのか。

(市)

- ・ 固定資産税の金額を決めるのは、地価を算定し、地価が決まれば路線価の価格を決めます。そして、標準宅地の価格を出して、割合を出して決めます。鑑定については不動産鑑定士に、路線価を決めるのは市で行っています。委託は、路線価を算定する上での補助業務をお願いしています。委託の成果についても、市の担当でチェックしています。

(参加者)

- ・ 今、説明のあった固定資産税の決め方は、市のホームページで見ることができるか。

(市)

- ・ どの部分を不動産鑑定士に依頼するかなど、細かい部分は書いてはいませんが、おおまかな部分については載せています。また、「固定資産税のしおり」という冊子も配布しています。

(参加者)

- ・ 私は障害者なので、個人市民税は非課税である。でも固定資産税は支払わなければならない。説明なく3年間の延長が決まった。ご理解くださいというが、この説明会で納得できなければもう一度考えていただく場もない。否応なく支払っていくしかない。理解できない気持ちはどうすればいいのか。

(市)

- ・ 税金を納めていただく際の相談は受けています。コロナが理由でということであれば、納付猶予の制度もあることから、状況に応じて対応させていただきます。

(参加者)

- ・ 回答になってない。納得できない場合どうすればよいのか。何が何でもこの場で納得しろということか。

(市)

- ・納得いただけない方がおられるというのも理解できますが、一方で、行政サービスを提供していくためにはコストがかかります。皆様の税金で成り立っていることから、納得できないという意見を受け止める一方で、行政サービスを止めてしまう訳にはまいりません。行政サービスが本当に適切なのかどうかは、議員や市民の皆様からチェックをいただき、行政運営を進めてまいります。

(参加者)

- ・他市では都市計画税をとっているが名張市はとらず、臨時的な財源として都市振興税をとっている。他所もあるなら仕方ないかとも思うが、名張は開発業者が道路や公園、下水道を整備した。土地の購入者が負担しているのではないのか。仮に都市計画税をとっていたとすれば二重課税ではないのか。都市計画税の課税要件である市街化区域と市街化調整区域を線引きし、市街化区域で土地区画整備事業をするために都市計画税を課している。名張市は非線引きで、区域が定められていない。課税要件が備わっていないのではないのか。都市計画税の負担を求めないではなく、徴収できないが正しいのではないのか。

(市)

- ・都市計画税は市街化区域、市街化調整区域の区分が定められている場合は、市街化区域のみ課税できます。区域が定められていない名張市の場合は、条例で対象の区域を定めることができるとされています。名張市が都市計画税を賦課できないということではありません。
- ・名張市の大型住宅地については、道路や下水道などのインフラ整備は民間業者が行いました。一部は市の事業で行いましたが、多くの場合は事業者が費用を負担し、それが地価に反映され、購入者が負担しています。都市計画税を賦課することは、二重負担ではないかという点については、数十年前の初回の整備を購入者が負担していますが、年数が経過し、現在、各種インフラ整備は更新時期が来ているので、その部分に都市計画税があたると考えています。

(参加者)

- ・5年前の段階で病院の借金がいつなくなるのかは分かっていたはず。この説明会で納得できなかったとき、もっと詳しい資料で説明をいただく機会もおそらくない。3年後は借金が減るから大丈夫だけでは不信感が募る。市民を大事にしてほしい。(回答不要)

(参加者)

- ・説明会を開催することの周知が足りないのではないか。150人だけが対象の説明会は不誠実。丁寧な説明が必要。ホームページを見れない人だっている。

(市)

- ・説明が十分かといわれると十分ではないかもしれませんが、市民の皆さんが集まる形での説明会は、この3日程で一旦終了します。資料は、市ホームページで公開しています。

(参加者)

- ・市内15地域の内3地域150人だけの説明は誠意がない。15地域全部まわるべき。職員給与の削減や会計年度任用職員の削減も広報に載っているが、本当にできるのか。もっと身を切る削減が必要ではないのか。

(市)

- ・地域づくりの代表者会議で都市振興税の延長について説明した際に、各地域での説明についての話があり、北部・中央部・南部の3か所での開催となりました。
- ・これまでも給与削減の取り組みをしてきた中で、さらなる職員給与の削減についての条例を提案する予定です。

(参加者)

- ・「広報なばり」の内容を見ると、都市振興税がないと財政健全化団体になってしまうかもしれないと市民を脅かしているように思える。どうしてこのような説明になったのか質問したい。

(市)

- ・脅しというよりは、何らかの対応をしなければこうなるという見込みをお示しさせていただいたものです。

(参加者)

- ・「都市振興税はまちのために必要なものだから市民に甘んじて受け入れろ。都市振興税がないと不便をかけることになるけどいいんですか。」としか読み取れない。

(市)

- ・都市振興税の導入や職員の給与削減をしないと、行政サービスが維持できないことをお示しさせていただいたものです。

(参加者)

- ・ここまでの財政状況になったのは誰の責任か。ずっと財政非常事態宣言が続いているのは誰の責任か。

(市)

- ・市の財政状況がここまでのことになったのは市民の責任ではございません。ただ、行政サービスをやっていく上で、財源不足分について都市振興税の延長をお願いするものです。

(参加者)

- ・配られた資料に都市振興税を活用した主な取組が載っている。これらの事業はどのように検討された施策ですか。都市振興税を課してでもやらなければならない内容ですか。

(市)

- ・若者定住のための取組や税収を生んでいく上では、産業振興も必要であることから、各種施策に取り組んでまいりました。

(参加者)

- ・忍者ツーリズム創造事業というのは、本当に今取り組まなければならないものなのか。

(市)

- ・これは、地方創生交付金という国からの補助金を活用した事業であり、観光業も重要な部分です。市内の観光資源への誘客につなげていくために必要な取組です。

(参加者)

- ・他の事業でもわずかな金額しか書かれていないものがある。たったこれだけの予算で何ができるのか。

(市)

- ・それぞれ国の補助金等がついているものがあり、事業予算の総額としてはもっと高くなります。資料に載っているのは一般財源部分です。

(参加者)

- ・私たち説明会参加者は配られた資料しか材料がない。総額がいくら、補助金がいくらかなどが分からない。それぞれの事業の必要性も理解できない。都市振興税の使い道として本当にふさわしいのか。

(参加者)

- ・非常事態宣言の名のもとにサービスが低下している。よくテニスコートを利用しているが、補修が必要になったコートは使用禁止になる。今日の説明会を聞いて思ったのが、参加者の皆さんが納得いかないのは、市のやり方が気に入らないんだと思う。説明会は事後。市民の声も聴かない。そこが不満。財政の問題はいろいろあるかと思うが、行政の姿勢に不満があると思う。総務部長が答弁しているが、市長の答弁がないので、ぜひ市長の意見も聞きたい。

(参加者)

- ・市は説明会をするつもりがなかったと思う。代表者会議で済めばそれでいいくらいに思っていたはず。北部・中央部・南部で説明会を開催すると言っていたが、要は説明しに来いと言ってきた地域を廻っているだけで、コロナを盾に人に集まって欲しくないと考えているようにしか思えない。どういうつもりで説明するつもりだったのか。

(市)

- ・説明が遅れたこと、コロナの状況の中、財政見通しがお示しできなかったことについて、お詫びを申し上げます。
- ・前回（5年前）の説明会は議会前でしたが、3会場で説明させていただきました。事前申込については、クラスターが万が一起きた時のためのものですので、ご理解をいただきたいと思えます。
- ・固定資産税の納税者の半分は個人。半分は法人。法人にはこれから説明にお伺いする予定です。
- ・都市振興税の使い道がお粗末ではないかというご意見でございますが、公債費が多いことから、これをなんとかしていかなければと考えています。また、病院事業会計への繰出金が毎年14億円ありますので、これについても何とかしなければと考えています。
- ・職員の給与について、これ以上の削減は限界かなと思っています。新規採用の際、合格者が辞退することがあり、人材獲得に支障ができることを懸念しています。
- ・あと3年で黒字に転換していく見通しです。任期中には、数字を示してまいりたいと考えています。
- ・市民サービスの低下について、ご意見を頂戴しました。国体が終わったらテニスコートの改修など、順次スポーツ施設の改修に取りかかりたいと考えています。
- ・財政がこのような状況になったのは誰が悪いのかというご質問をいただきました。これにつきましては、市長が悪いんだと思います。しかしながら、精一杯頑張っておりますので、政治生命はあと1年ですが、この間に数字でお示ししたいと考えています。